多賀城民報

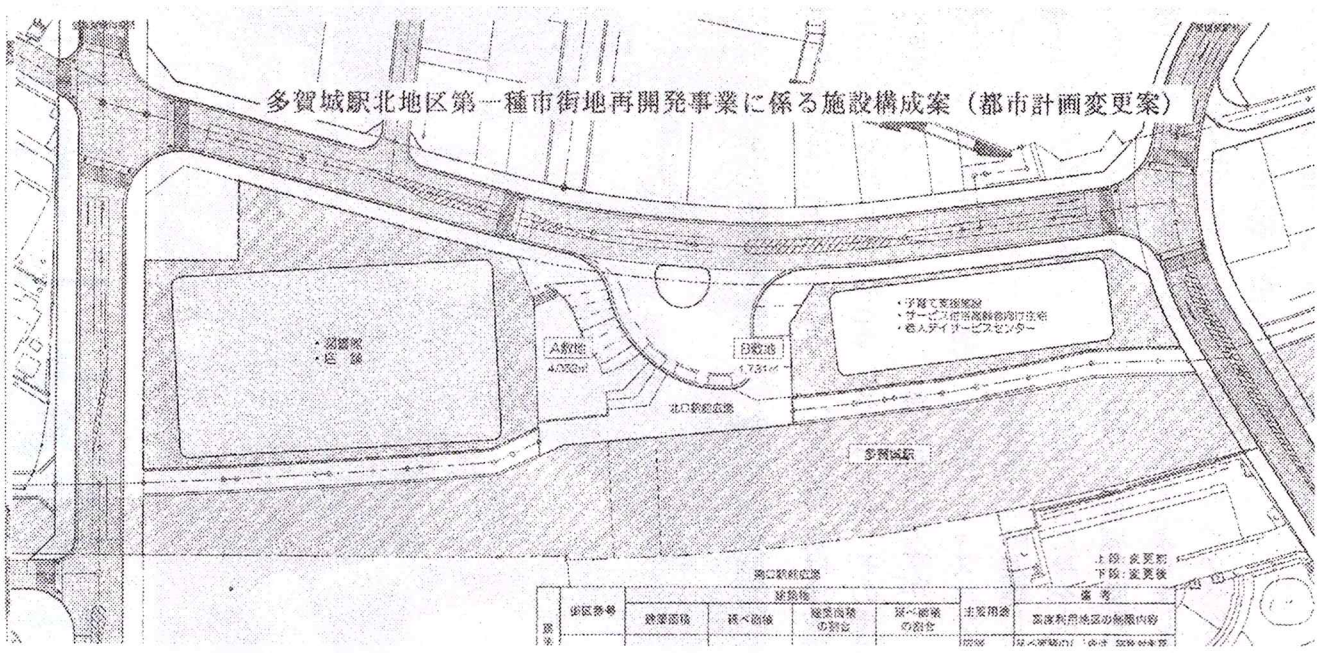
題字は池田和京さんにご揮毫いただきました。

菊地市長突然表明

駅前への「蔦谷書店の出店」と「まちづくりへの提案」を内容に

「7/11 CCC（ツタヤ）と共同記者会見」

7月9日午前に行われた多賀城市議会東日本大震災調査特別委員会で、菊地健次郎市長は突然「駅前への蔦谷書店の出店とまちづくりへの企画提案を内容として、7月11日にCCCと共同の記者会見を行う」と発表、特別委員会は13時まで延長されました。



記者会見は、11日正午に東京で、午後5時に多賀城で行うとしています。

藤原ますえい市議は「明後日会見というなら何らかの合意文書ができているはずだ」と文書の提出を求めましたが「文書はない。内容は『蔦谷書店の出店』と『まちづくりへの企画提案』でその他については今後協議していくことになる」と述べました。

また同市議が「図書館の運営をゆだねることについては合意内容に入っているのか」と質したところ、「入っていない」と回答がありました。

この特別委員会は「補正予算に計上している復興交付金事業（特に清水沢多賀城線）について事前に説明をしたい」との当局からの申し入れで開催したもの。しかしこうした市長表明があるなど、全く議会に知らされていませんでした。こうした進め方について与党会派からも批判の声が出されました。

一本柳造成後、雨水幹線完成は1年半後

柳原きよし市議「8・5水害以後さんざん水害に苦しんできたのに無責任」と討論

9日午後に開催された多賀城市議会臨時会に平成25年度一般会計、下水道会計の補正予算が上程されました。一般会計補正予算の中には、一本柳地区を「多賀城市津波復興拠点整備事業」として整備に着手するための予算2,700万円も計上されました。

しかし、平成26年度の中頃から約1年間かけ16.7ヘクタールを約1メートルを盛土し造成しますが、雨水排水路の完成は同28年度末となることが明らかになりました。

日本共産党は「本市は長年水害に苦しんできたのに無責任」と批判し反対しました。柳原市議の討論要旨は以下のとおりです。

一本柳地区はまず富県戦略に乗っかった工業団地化構想として提起されたが、党市議団は「西部地区の大半が集まるこの地区への団地造成は治水環境を著しく悪化させる」と批判してきた。大震災以後「津波復興拠点」と位置づけを変えたが、我々の指摘に対し「雨水対策はきちんとやる」と答弁してきた。だが雨水幹線整備は造成完了後1年半もかかることが明らかとなった。これは、8・5水害以後長年水害に悩まされてきた本市にあって、また現在も高橋で水害が発生している状況にあって許されないことである。よって議案第57号多賀城市一般会計補正予算（第3号）に反対するものである。

日本共産党
多賀城市議団
多賀城市留ケ谷一丁目11番23号
代表（364）3222
FAX（309）3910

◇弁護士による
法律相談
◇申込
電話で予約して下さい。
◇電話
364-3222
◇相談日
7月17日（水）
7月26日（金）
◇時間
午後1:30～
◇場所
旧阿部福商店となり塩釜県民の会事務所

◇議員による
暮しの相談
電話
藤原益栄議員
368-6623
070-6497-6623
佐藤恵子議員
367-0182
090-2027-9884
柳原きよし議員
368-1883
090-2605-4984
戸津川はるみ議員
090-7528-2075

東風城月

この7月、多賀城小学校と山王小学校は開校140周年を迎える。多小は1873年7月15日、「第一中学区三十五番笠神天真小学校」として、現多賀城公園球場東側の薔薇園に建っていた西園寺で開校した▼山王小学校の開校日は7月13日であるが、資料的には13日なのか24日なのかはっきりしない。『宮城郡誌』（昭和3年）は総論部分では「24日」とし各論では「13日」という具合…。まだ未解明の分野もある▼1998年発行の『多賀城小学校の百二十五年』には「しろあとI」（昭和6年）、「しろあとII」（同7年）、「皇太子殿下御降誕奉祝宮城郡記念」（昭和9年）等の児童文集の抜粋が収録されている。いずれも当時の貴重な証言である▼ところでこれらの文集は、すでに多賀城小学校では見当たらず、多賀城市立図書館がコピーを保管してくれていたおかげで収録できたもの。編集に携わった一員として深く感謝したことを昨日のように思い出す▼いま図書館を民間にゆだねようという動きがある。片山善博元総務大臣は図書館は直営ですべきものだと主張する。私は民間への丸投げで、こういう資料が本当に大事にされるのか、今後も収集されるのか、憂慮している。